

“夢語り”こそ、  
農業の未来を繋ぐと信じて

美里町・西田さんご一家  
(畜産・米農家)



美里町で畜産業、稲作などを営む西田さんご一家。誠也さん・冷子さんご夫妻、その三女である知徳子(ちとこ)さんと、その夫の一紀さんの4人で従事している。

以前は養蚕を中心に営んでいたが、20年前、当時一頭だけ飼っていた仔牛が品評会で優勝したのを機に、畜産業に徐々にシフトさせた。当時は、「牛でやっていけるのか」と心配されたが、現在では約140頭の赤牛の繁殖肥育の一貫経営を行う、大きな畜産農家となった。



\*

西田家に嫁いで35年を迎える冷子さんは、林業を営む家で育った。女の子ながら、子どもの頃から家業を手伝っていたが、その頃からずっと、農業をしたいと思っていた。農業は老若男女を問わず、家族みんなで仕事ができるから、それだけで夢のある仕事だと感じたのだという。「父は、林業に対する夢を私に語っていました。今、農業は後継者不足が問題になっているけれど、一番有効なのは、農業を営んでいる親がその子どもに、夢を語ることだと思うんです。」と、冷子さん。

冷子さんは自身の父親と同じように、3人の娘たちに農業の夢を語り、“当然のこと”として家業を手伝わせてきた。その甲斐あってか、長女は農家に嫁ぎ、三女の知徳子さんは、一紀さんを夫に迎え、家業を継ぐこととなる。「“夢語り”が、家を繋いでくれたんだって思ってます」と冷子さんは嬉しそうに笑う。



結婚前まで工場に勤務しており、農業をしたことはなかった一紀さんの存在は、冷子さんの励みであり、誇りだ。初めての仕事を一生懸命習得していく一紀さんの姿は、35年前に嫁いできたときの冷子さん自身の姿。「自分も手抜きしないで、一生懸命やろう」という気持ちがますます強くなり、一日一日がとても充実しているのだそうだ。

\*

西田さんご一家には跡取りができ、30年先を見据えた農業、家業のあり方を考えながら、日々の暮らしを積み重ねている。

そんな冷子さんが、これから農業に従事しようと考えている人に伝えたいことは、「挑戦してみて」ということ。「農業は“雑な心”ではできないけれど、まじめに、一生懸命やっていると手を貸してくれる人が出てきて、必ず喜びにつながるから」と。

子どもの頃から農業に就くことを夢に見、夢を叶え、さらに夢を膨らませ続けている冷子さんの軌跡には、農業の魅力が伝わるキーワードがたくさんある。